

秋田の資源を活用した新しい産業の創出に向けて

2021年2月16日

取締役頭取 伊藤 新



A photograph showing three men in dark suits and ties seated at a long table. They are facing slightly to the right. The man on the left has grey hair and glasses. The man in the middle has dark hair and glasses. The man on the right has grey hair. There are microphones and papers on the table in front of them. In the background, there is a television screen and a window with blinds.



- ▶ 2012年9月、フィデアグループ、地元企業等で「ウェンティ・ジャパン」設立
- ▶ 日本海沿岸の優れた風資源を活用し開発や運営、保守・管理等の関連付随事業を展開
- ▶ 秋田県内36基、北海道石狩市に2基、計38基（合計103MW）を建設し順調に稼働中
- ▶ 現在、秋田県内3海域、秋田県外 1 海域で洋上風力発電事業を開発中



三菱商事が国内初参入

国内最大規模出力6万6千瓩

中部電力女子会社（シードック（名古屋市中区）の2社と共同で事業を実施することが19日、分かった。三菱商事が国内で陸上風力発電に参入するのは初めて。2019年前半の東北電力への売電開始を目指している。

秋田、潟面市にまたがる
県有保安林で風力発電所建設
を計画している風力発電事業
会社サウンティンジヤバ(秋
田市、佐藤裕之社長)が、総
合商社の三菱商事(東京)と
三南側の海岸約3.5キロの

が出資。大規模事業を手掛
るに当たり、ノウハウを持つ
計画によると、保安林は過
半数を譲渡する。

から建設工事に着手する。工事や風車の保守点検業務などの具内業者への発注、環境教育の実施などの地元貢献も検討している。

三菱商事は米国で陸上、オ

「A-WIND ENERGY Y（エーウインドエナジー）（秋田市）に選んだ。」
（伊藤康仁）

800平方メートル。3社は出力3千瓩の風車2基（合計出力6万6千瓩）を設置する計画で、実現すれば陸上では県内最大、国内でも最大規模。年間発電量は、般電約4万世帯分に相当する1億4,000万瓩時を見込む。総事業費は約2,000億円。事業による利益のみを返済原資に充てる融資形態のプロジェクトファイナンスの手法で、北部県ながら融資を受ける予定。

現在、ウェンティ社が環境影響評価（アセスメント）を進めている。9月には造成工事、12月には基礎工事、来年度春までに取組めば、来年度発電所建設に参加する。三商市広報部は「秋田は巨港の支援や理解があり、風況も恵まれているため参加を促した」としている。

ウェンティ社の佐藤社長「県内の風力発電事業は県資本が多いのが現状だ。地中心の今回の事業を成功させ、地域資源の風から得られる利益を県内に還元したい」と話した。

県有保安林の風力発電事業は、県が2013年12月に「風力発電に関する事業者を公募。県内、県外、2社の応募の中から、出水浜水浴場から南側を

ウェンティシなどから風力発電
を建設する県有保安林

日本海

比呂浜
佐水浴場

秋田県

湯上市

7

25

秋田港

秋田湾

事業概要

面積：360万㎡
風速：(3千kW)×22基
合計出力：6万6千kW
年間発電量：1億4200万kWh

N

の風力発電
業の実績が
る。国内で
日連協(公)
阪市(など)
新潟県村上市
の沖合で計
中の洋上風

2016年5月20日 秋田魁新報
三菱商事パワー他と連携し、大型風力発電所『秋田潟上ウィンドファーム』を建設。当行がプロジェクトファイナンスを組成。

再生可能エネルギーの宝庫

恵まれた風況



秋田県
風力発電導入量
312基 65万kw
※2019年末時点で
全国一位

県土の約7割 が森林



県内2箇所県内木材を活用した大規模
バイオマス発電所

全国有数の 地熱賦存量



国内23年ぶりとなる大
規模地熱発電所稼働

豊富な水資源



明治時代から全県各
地に水力発電所運営

《プロジェクトファイナンス》

2013年より地域の再生可能エネルギー事業向けにプロジェクトファイナンスを組成。組成総額は、22件899億円（当行引受額322億円）となっております。

NEWS RELEASE

平成 30 年 3 月 28 日
各 位
株式会社 北都銀行

ウイネット三種合同会社・ウイネット八峰合同会社における風力発電事業へのプロジェクトファイナンスによる融資契約の締結について

株式会社北都銀行（頭取 斉藤永吉）は、秋田県山本郡三種町、並びに秋田県山本郡八峰町沿岸における風力発電向けに融資関連契約を締結することを決定いたしました。

上記、風力発電事業は、秋田県山本郡の沿岸地域2カ所において、約2,500kW級風車を設置する事業であります。株式会社ウェンティ・ジャパン（本社：秋田市、社長：佐藤裕之）とJR東日本エネルギー開発株式会社（本社：東京都、社長：中島等）の2社をメインスポンサー（出資者）とし、複数の地元企業が参画し設立された、ウイネット三種合同会社、並びにウイネット八峰合同会社と、弊行との間でプロジェクトファイナンス契約を締結しました。

本件プロジェクトに地元企業数社が参画しており、運営業務をはじめ、地域経済への波及効果を期待しているところであります。

なお、弊行が組成したプロジェクトファイナンス案件は19件目となります。

今後も、プロジェクトファイナンスのアレンジ業務を通じて蓄積したノウハウを、秋田県を中心とした地域での再生可能エネルギー事業等に活用し、地域社会・地域経済の発展に貢献してまいります。

記

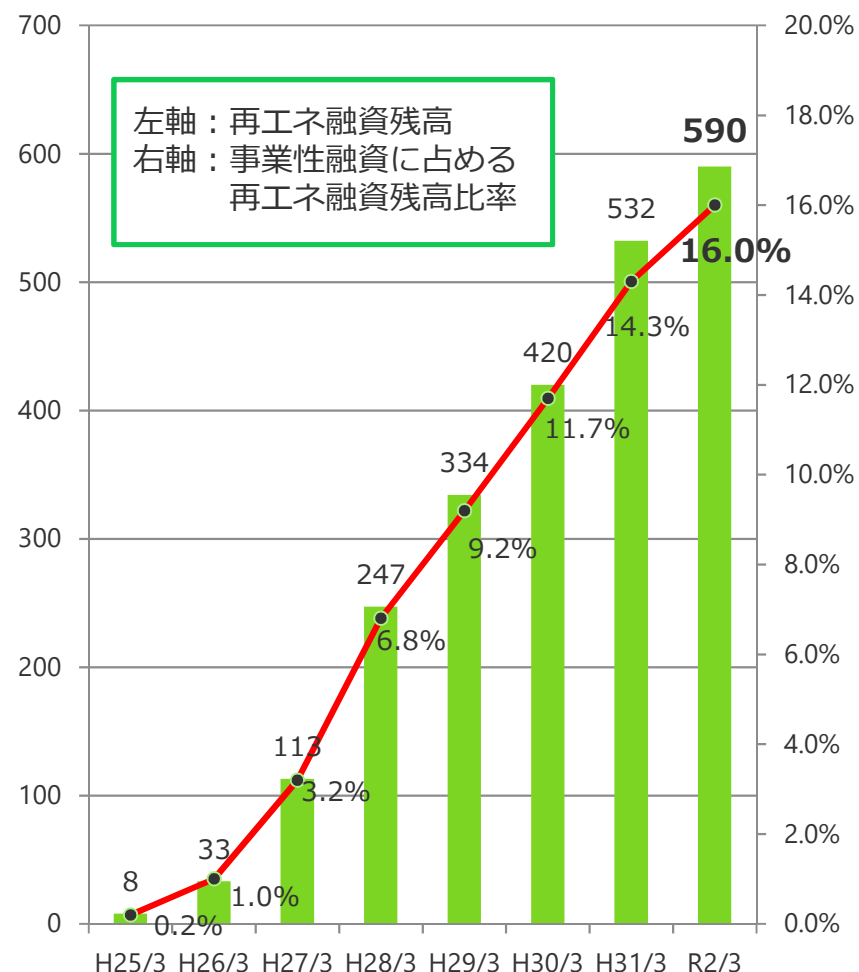
1. ウイネット三種合同会社の事業概要

〈1〉実務事業者	ウイネット三種合同会社
〈2〉建設予定地	秋田県山本郡三種町浜田地区 他
〈3〉風力発電機	senvio 製3,4M104 3基
〈4〉総出力	7,470kW
〈5〉運転開始	平成31年3月（予定）
〈6〉融資スキーム	プロジェクトファイナンス（※）

（※ページに続く）

《再エネ向け融資残高》

地域の再エネ事業へ積極的に支援実施。令和2年3月末融資残高は590億円で、事業性融資全体の16%となっております。



北都銀行の取組み② 再エネ100宣言 RE Action参画



2021年1月4日地方銀行初、秋田県初となる『再エネ100宣言RE Action』に参画。地域の再エネ発電所の電力を活用し、2050年までに**使用電力100%の再エネ化**を目指します。

《イメージ図》



秋田県営水力発電所



秋田潟上
ウインドファーム



(秋田魁新報 2021年1月5日掲載)

《課題》

地域の再エネ電力が地域で活用されていない

- ⇒ 県外の大企業による再エネ電力活用が増加
- ⇒ 一方、地元企業（個人）が地元の再エネ電力を活用（地産地消）する事例は限定的
- ⇒ 電力会社の再エネプラン切替は、コスト増となるケースが多く、再エネの地産地消実現にメリットを感じてる企業（個人）は少ない

《ご検討いただきたい事項》

再エネ電力の地産地消実施企業に対する『認証制度』実施

- ⇒ 地元企業（個人）が地域の電力を使用（地産地消）を活用した場合のインセンティブを付与することで、再エネ電力の地産地消を推進

《課題》

再エネ発電事業に対する銀行としてのリスクアセット増加

⇒装置産業であり、融資対応額が増加

再エネ開発資金向け融資対応に二の足

⇒地域事業者における再エネ事業開発において、系統連係費の増加及び長期化、制度変更リスクにより開発資金向け融資へのリスクが高い

⇒一部ファンド等はあるものの資金供給量に制限あり

《ご検討いただきたい事項》

地域事業者による地域再エネ事業に対する債務保証制度の創設

⇒債務保証制度により地域再エネ事業への資金供給増加

⇒債務保証先からの助言等により開発促進

【討議3】連携・横展開にむけて（コンソーシアムの組成）



会 長 佐藤裕之 株式会社ウェンティ・ジャパン社長

共同設立 北都銀行

◎コンソーシアムの主な取り組み

- (1) 風力発電に関する研究開発、実証研究の実施
- (2) 配送電、系統連系に関する研究と開発
- (3) 風力発電事業の立ち上げと継続に関わる投資・金融手法の研究と開発
- (4) 再生可能エネルギー、電力等に関する法制、制度の研究と提言
- (5) 風力発電機関連産業の産業化
- (6) 再生可能エネルギーに関する啓発、情報発信

会員総数100団体以上

(2020年12月現在)

地公体・大学・電力事業者
土木建設・メーカー・製造業
金融等様々な業種の団体

産学官金の連携

産業化研究部会

電力インフラ研究部会

O&M研究班

部品産業化班

地域振興班

インフラ研究班

2013年9月17日に秋田風力発電コンソーシアムが設立され、(株)ウェンティ・ジャパンは会長会社に任じられました。このコンソーシアムは、自治体はじめ県外メーカーや地元製造業、金融機関など、さまざまな業種により組成され、メイド・イン秋田の発電機（風車）の製造や、風力発電に親和性の高い産業の育成を大きな目標にしています。



(2013年9月17日設立総会の様子)



(地域振興班会議中の様子)

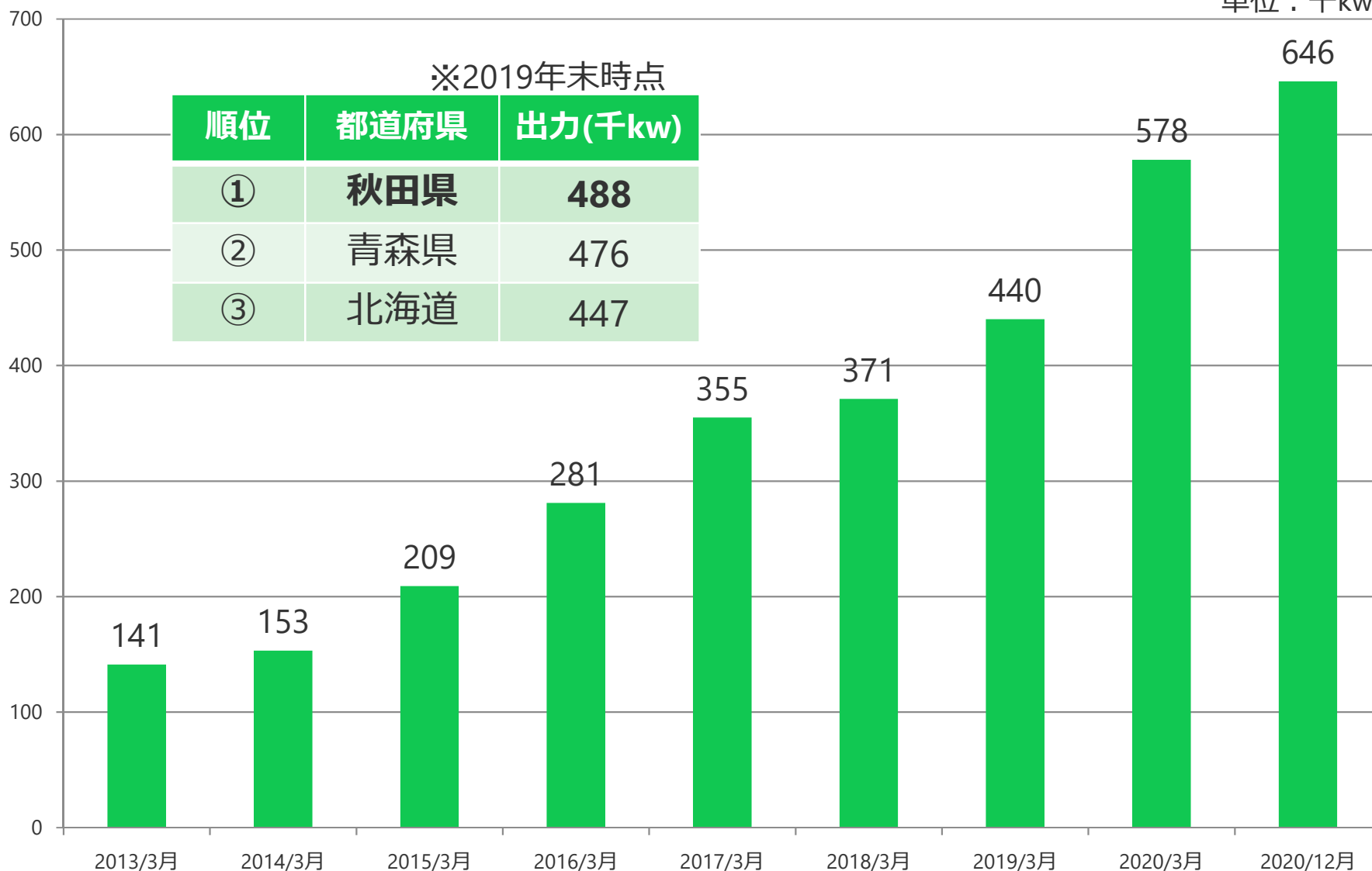
ご参考資料



【資料1】秋田県風力発電導入実績の推移

秋田県風力発電導入量

単位：千kw



【資料2】秋田県内洋上風力発電計画

★・・・公募開始

★・・・有望な区域

★八峰能代沖 180MW

《事業予定者》

- ① ジャパンリニューアブルエナジー
- ② 日本風力開発
- ③ 三菱商事パワー/中部電力

★能代三種男鹿沖 455MW～540MW

《事業予定者》

- ① 大林組/関西電力/東北電力/秋田銀行/寒風/沢木組/三共/ダイニチ/中田建設/日本電機興業/能代資源
- ② 住友商事/東京電力/JR東日本エネルギー開発/国際石油開発帝石/石油資源開発/ウェンティジャパン/加藤建設/成田建設
- ③ 三菱商事パワー/中部電力
- ④ JERA/電源開発/エクイノール
- ⑤ 日本風力開発/ユーラスエナジー/オーステッド

秋田潟上沖 500MW

《事業予定者》

- ① ウェンティジャパン/コスモエコパワー/清水建設/石油資源開発

★由利本荘沖 700MW～840MW

《事業予定者》

- ① レノバ/東北電力/JR東日本エネルギー開発/コスモエコパワー
- ② 三菱商事パワー/中部電力/ウェンティジャパン
- ③ RWE/九電みらいエナジー
- ④ JERA/電源開発/エクイノール
- ⑤ 日本風力開発/ユーラス/オーステッド

洋上計画合計

約2,000MW

秋田県陸上風力合計

644MW

洋上風力は既存陸上風力の約3倍の計画！

能代港湾 84MW (20基)
秋田港湾 55MW (13基)
丸紅 他

再エネ海域利用法に基づく
事業者選定までの流れ

都道府県から候補地の情報収集

一定の準備段階に進んでいる区域を整理

有望な区域を選定

協議会での促進区域案協議

促進区域の指定

公募実施

事業者選定

【資料3】洋上風力発電の経済効果

建設段階 秋田県内受注見込み **2,691億円**

建設段階	全体 182万kw	秋田県内 受注額	内訳				
			秋田港 能代港 13.9万kw	能代三種 男鹿 45万kw	由利本荘 84万kw	八峰能代 18万kw	秋田潟上 21万kw
建設段階投資額	1兆469億円	2,691億円	257億円	651億円	1,217億円	261億円	305億円
風車建設工事	3,480億円	564億円	54億円	136億円	255億円	55億円	64億円
風車（部品）製造	3,874億円	—	—	—	—	—	—
インフラ（送電網、港湾）	1,051億円	756億円	72億円	183億円	342億円	73億円	86億円
その他	2,064億円	1,371億円	131億円	331億円	619億円	133億円	155億円

運転期間中売上高（20年） **1,387億円/年**（20年累計 2兆7,740億円）

※182万kw×8,760h×設備利用率（仮）30%×FIT（仮）29円/kwh=1,387億円

運転保守期間（20年） 秋田県内受注見込み **159億円/年**（20年累計3,180億円）

運転保守段階 （20年）	全体 182万kw	秋田県内 受注額	内訳				
			秋田港 能代港 13.9万kw	能代三種 男鹿 45万kw	由利本荘 84万kw	八峰能代 18万kw	秋田潟上 21万kw
運転保守段階投資額	792億円/年	159億円/年	12億円/年	39億円/年	74億円/年	16億円/年	18億円/年
運転・保守	287億円/年	154億円/年	11億円/年	38億円/年	73億円/年	15億円/年	17億円/年
その他（保険、管理費他）	505億円/年	5億円/年	1億円/年	1億円/年	1億円/年	1億円/年	1億円/年

【資料4】バイオマス発電事業への取組み

- ・秋田県の7割を占める森林資源の活用したバイオマス発電事業へ支援。
- ・当行が中心となり、106億円のプロジェクトファイナンスを組成。
- ・発電所の運営に伴い、発電所、林業者、チップ業者、運送業者にて100人以上の雇用が発生。
- ・従前山林へ捨てられていた未利用材を活用することで、林業者へも十分な利益が発生、林業の活性化にもつながっている。

